

「税を考える週間」「雪谷法人会創立50周年」合同記念講演会

がんばっぺ！オラの大好きな日本

講師：山形弁研究家 ダニエル・カール氏

10月27日(木)午後2時より、タレントでありながら、翻訳家、事業家、そして山形弁研究家と、多方面でご活躍されるダニエル・カール氏を講師にお迎えし、記念講演会を開催しました。

今年は雪谷法人会創立50周年の記念すべき年となりましたので、「税を考える週間」と「雪谷法人会創立50周年」合同記念講演会と致しました。大田区民プラザにて、会員および地域の皆様84名の参加を得て開催しました。

ダニエルさんは、1960年3月にアメリカ合衆国カリフォルニア州でお生まれになりました。幼少の頃、お父様と一緒にいったジャパニーズ・タウンで日本の文化に興味を持ち、以後日本に対する知識を高めていったということです。

その後、高校生の時に奈良県に一年留学し、大学生の時には、大阪に4か月、京都に2か月、佐渡島に4ヶ月留学しております。この時、同じ関西であっても文化や人々の性格、言葉も全然違うことに驚きと興味を感じ、方言というものに興味を持ったということでした。そして大学卒業後に文部省の英語指導主事助手として山形県に赴任した時、『ここが自分の生きる場所』と感じ、以来40年近く日本で暮らすことになります。



ダニエルさんはアメリカ人ですので、長く日本に住んでいるとよく『日本のどこが好きですか?』という質問を受けるそうです。ですが、日本の全てが大好きなダニエルさんにとって、この質問は一番答え難いとのことでしたが、最近では日本の『バラエティ』が好き



だと答えるようにしているそうです。それは何故か?ダニエルさんは語り

ます。「日本の方は、日本を紹介して欲しい、自分の土地の良さを紹介して欲しい、他との違いを教えて欲しいと言うと、決まって『特に何も無い』と答える。でも、外国人の私から見たらそんなことはなく、実に『バラエティ』に富んだ自慢が土地ごとにあるんだ。それに気づいて欲しい。」とおっしゃいます。ご自身の出生地である、カリフォルニア州は、日本と似た細長い形をしているが、東西南北どこに行っても食文化も同じ、方言も存在しない。それに比べれば何とも面白い国なのだと、日本人以上に日本の自慢話を語ります。

古き時代、山に囲まれた日本は各土地が現在のような都道府県ではなく、『一国』として独自の文化を形成しておりました。その名残が方言であり、食文化の違いです。これが今、日本人の長所・美德でもある『謙遜』の心の捉え違いにより、失われつつあることをダニエル氏は指摘します。

『自慢』を嫌い『謙遜』を美德とする日本人は、とても奥ゆかしく世界が羨む素晴らしい人間性を持っているとしながらも、バブルの崩壊、高齢化社会という現実により心が疲れたからか『謙遜』する言葉に心がこもっておらず、単に面倒だから『特に何も無い』と言っているように感じる。本当はこんなに自慢することがあるんだ!と目を輝かせながらも、控えめな態度をとることに美德は感じられるが、自慢できることを知りもせず、考えもせず、何も感じず、『何も無いよ』とすることに美德は生まれないとおっしゃられました。また、『自慢』は必要以上にすると人に嫌われてしまうが、バランス良く発することで自身がその物事の良さを忘れないようになるとのアドバイ





スも頂きました。例えば、水道水が飲め、しかも味も悪くないということは世界的にも日本だけだが、これが多くの日本人の意識の中で『あたり前』となってしまうている。その多くの日本人が『これは自慢なんだ』と自分にときおり再認識させることで、日本の良さは損なわれず、新しい良さが生み出されるということでした。



来る2020年、日本は東京オリンピックを迎えます。その時には是非、来日した外国人の方達に、日本の、そして自分の土地の自慢をして欲しい。方言も、食文化の違いも、水が飲めることも、治安が良いことも、教育制度の素晴らしさも、日本の方たちが一生懸命に作りあげ、守り続けて来た『自慢』なのだから、『謙遜』とのバランスを考えて、これからも『当たり前のこと』と風化させないように大切にして行って欲しいと述べ、講演を終られました。

外国人だからこそ伝えられる日本の良さ、日本人として忘れかけていた日本の良さを再認識させられた講演でした。東京オリンピックに備え、とても大切なことを教えて頂きました。参加された皆様にも十分にご満足頂ける、有意義な時間となったと思います。

研修委員 ソニックス株式会社 **金山 春樹**

